

小石川分館特別展示



Pio-Engineers in Modern Japan

田中林太郎・不二儀一の仕事

田中林太郎・不二儀一の仕事

Rintaro, Fuji and Gichi, Three Generations of Tanakas

2017.2/4sat—6/11sun

東京大学総合研究博物館小石川分館

KOISHIKAWA ANNEX, THE UNIVERSITY MUSEUM, THE UNIVERSITY OF TOKYO

時間：10:00—16:30 (入館は16:00まで)

休館日：月・火・水曜日 (いずれも祝日の場合は開館)

会場：東京大学総合研究博物館小石川分館1階

主催：東京大学総合研究博物館

入館料：無料

お問い合わせ：03-5777-8600 (ハローダイヤル)

um.u-tokyo.ac.jp



工学主義

田中林太郎・不二・儀一の仕事

Pio-Engineers in Modern Japan

—Rintaro, Fuji and Giichi, Three Generations of Tanakas

田中林太郎(安政4-大正13)・不二(明治10-大正11)・儀一(明治35-昭和60)は、江戸から明治時代にかけて活躍した発明家で「からくり儀衛門」と呼ばれた田中久重(寛政11-明治14)の家系に連なる親子三代である。彼らはそれぞれ、皇居や東宮御所の造営、わが国最初の日本語による機械設計の教科書執筆、国会議事堂の内部装飾といった、近代日本における「工学」分野の発展を象徴する重要な仕事に携わった。東京大学総合研究博物館は、林太郎・不二・儀一の三代が所有してきた文書、写真、物品、書籍等から成る複合的な資料体を田中儀一旧蔵品として収蔵している。本展覧会では、本資料体を初めて特別展示として一般公開するにあたり、その中から彼らの主要な業績に関わる資料を選び、彼らの仕事を紹介する。

小石川分館特別展示



田中林太郎/「仮皇居暖房装置之概説」/明治21年



国会議事堂竣工記念ポストカード「議事堂便殿前広場」
田中儀一デザインによる便殿入口レリーフ
および床モザイク/昭和11年

田中儀一/国会議事堂便殿入口レリーフ図案
昭和5-11年頃

「工学」とは、明治期の近代化において西欧から輸入された学問であり、日本の近代国家建設を担った技術である。「エンジニアリング」の訳語に用いられた「工」とは、「たくみ」と訓読みされるように、小さな細工ものから大きな建造物まで、それを形にする「たくみな」技術力を表す文字であり、西欧化以前から日本に存在していた概念でもある。これを考え合わせると、「からくり儀衛門」に連なる田中家の系譜である林太郎・不二・儀一の仕事は、「工学」が日本に根づいていく過程を見る上で、非常に興味深い対象であると言える。本展覧会では、三人の主要な仕事を一度に概観することにより、近代日本における「工学」の黎明期から発展期までという一つの時間軸を浮かび上がらせるとともに、土木から、建設、材料、機械、建築、意匠・デザインまでという「工学」が扱う領域の多様性を展開して見せる。このように、本展覧会が着目するのは、「工学」という学問分野や技術史発展に、日本の近代化の文化的「構造」を読み解く手がかりを得ることができるのではないかと、いう点である。この俯瞰的視点は、「建築博物誌/アーキテクニカ」をテーマに常設展示を公開する小石川分館の特別展示として、「アーキテクチャ」という語を事物や事象の諸原理を束ねる概念として用いることに由来している。

- ギャラリートーク「工学主義—田中林太郎・不二・儀一の仕事」
2017年6月3日(土)12:30-13:00
担当:寺田鮎美(東京大学総合研究博物館特任准教授)

- 【同日開催】
建築博物教室第13回
「空間のアーキテクチャ—建築の記憶を環境の創造につなぐ」
2017年6月3日(土)13:30-15:00
講師:松本文夫(東京大学総合研究博物館特任准教授)

東京大学総合研究博物館小石川分館

KOISHIKAWA ANNEX, THE UNIVERSITY MUSEUM, THE UNIVERSITY OF TOKYO

東京都文京区白山3-7-1

アクセス: 地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩8分

